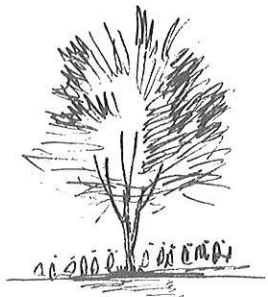
ひかりのこ

光の子



No.141　2010.3.20

●年間聖句　友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。
（ヨハネによる福音書15章13節）

「つるしひなかざり」　挿絵・中島英子

「花の昼」

考へる仏の手より冴返る
いつまでも夕日を載せて春の泥
啓蟄の雲にぎやかににぎやかに
しやぼん玉の高き一つを淋しめる
くるくると恋には遠き春日傘
さんざめく湖を残して鳥帰る
櫂立てて憩ふカヌーや花の昼

黛　執
（「春野」主宰）

発行／社会福祉法人　光の子どもの家　TEL/0480-72-3883　FAX/72-6649　振替／00130-1-128022
編集／光の子　編集委員会 e-mail:hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp 〒349-1155 北埼玉郡大利根町砂原277　印刷／プリンテング瑛和

義務教育後の子どもたち

施設長　田中郁夫

二十六回目の春を子どもたちと共に迎える事が出来ました。皆様のお支えとお祈りに感謝申し上げます。また、本年七月一日で施設開設二十五周年になります。私もこの職を拝命して五年目に入ります。自らに一番甘い自分自身を律していかなければと、決意を新たにしております。

最近新聞等で「子どもの貧困」という言葉が頻繁に使われています。二月八日付けの福祉新聞で「なくそう子どもの貧困」と題して、全国ネット発足を本年四月にむけ準備を行っていることが紹介されています。内容としては近年の経済不況の影響で、貧困に苦しむ子どもたちが、その理由により高校進学を断念するケースが年々増え続け、結局夢をあきらめざるをえない状況になっているといいます。準備会では「自ら夢をあきらめないですむ社会にしてほしい」と願い、活動を始めることが報告されております。

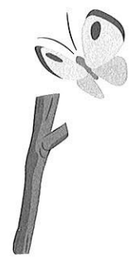
さて、一方当施設においては、今年度二名の高校進学が決まりました。開設当初は児童養護施設の子どもたちの高校進学率は七〇％を切っておりました（全国平均九〇％弱）。そのような中で私たちは、全員の高校進学を目指し学習指導に力を注ぎ、創立以来全員が進学を果たしてきました。当施設では、高校へ行くことが自然に当たり前になり、生活の中で伝統にもなっております。

義務教育終了一年前に、子どもたちには自分はどこで暮らし、どこから進学するのか決定するよう促しています。それは、ここへの入所は子どもたちの意志で入ってきたのではなく、親や家族の都合によるもので、子どもたち自身が選択した入所では無いからです。だから、義務教育終了と同時に、自分の暮らす場所を自ら決定する機会として大切にしています。その地点に至るまで、真実告知（家族のこと・何故ここに来るようになったのか等）に近いことを再確認するよう伝えます。多くの場合、家から高校へ進学できる家庭状況には無く、彼らは現実を知ることになります。時には、親に来ていただき、本人に家からは高校へ行けない事情を説明していただき（本当の事を言えない場合もありますが）、親も一緒に施設からの進学を希望する場面を設定することもあります。いずれにしても、本人の意志で高校進学と居場所を決めさせ、数年間頑張るように私たちは力を注ぎ、関わる大人も居続ける決意をするのです。

制度的には、児童養護施設利用は二歳から十八歳までですが、高校進学しない場合や中退した時は、基本的に児童養護施設には居にくいことになります。ここでも多くはありませんが、中退した後、公的福祉のお世話になっている子どもがおります。家庭復帰した子どもたちの中には、経済的理由で高校進学も出来ずに苦労している子どもたちもいます。

児童養護施設は国の最低基準の措置の中で、子どもたちの高校進学が保障されるようになりました。平成二〇年度統計で、高校進学率は全国平均九七・八％に対し、児童養護施設の高校進学率は九二・二％（通信制、定時制を含む）です。しかし一方では、高校に行きたくても行けない子どもたちが今増えてきていると言われています。国は全ての子どもたちが、経済的理由であきらめないですむような施策に早急に取り組むべきだと思います。

この年度も子どものためのはたらきに努めて参ります。皆様方の更なるご支援、ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。



メノニータのコロニー

JICAシニア海外ボランティア　仙道　富士郎

前号に、足の痛みをこらえて、パラグアイのチャコ地方というところに旅行に出かけたことを記した。実は、無理をして参加したのは、何人かのパラグアイ人にチャコは一回見ておいた方が良いと言われていたからでもある。

チャコ地方はパラグアイ全土の半分近くをしめ、この国の北部に位置する地域であるが、夏は気温が五〇度を超すこともあり、降雨量も極めて少ない不毛地帯である。ここに、キリスト教の一派であるメノニータの人たちがコロニーを築いたのは、一九二七年である。なぜこのような不毛地帯にコロニーを作ろうとしたか、疑問に思うだろうが、私たちにメノニータのことを説明してくれたコロニーの広報を担当している人の話によると、実は、一九二一年に先発隊が来て、調査をしているのだが、皮肉なことに、この年は珍しく降雨量も多く、気温も高くなく、ここが緑の大地と見えたらしい。ところが翌年からは、まさに灼熱の大地そのものであり、その時から彼らの苦難の日が始まり、疫病なども加わり、多くの移住者が犠牲になったとのことである。さて、メノニータのことである。ご存じの方も多いと思うが、メノニータは十六世紀の宗教改革のときに生まれた、福音伝道派の一集団であり、幼児洗礼の否定と兵役の拒否を基本教義としている。メノニータという言葉はカトリックの神父としての職を棄て、この集団のリーダーとなった〝メノ・シモンズ〟に由来している。彼らはコロニーを作り、集団生活をしている。その急進的な生活様式や兵役拒否などの理由から、時の政府、カトリック教会、そして他のプロテスタント教会から迫害を受け、それを避けるべく、居住の地を転々とかえなければならなかった。

現在チャコ地方に居を構えているメノニータは九千人ほどであるが、驚いたことに、この人口で四〇万ヘクタールもの土地を耕している。メノニータの教義を理解しているわけでもないし、足を引きずりながらの短い訪問ではあったが、メノニータのコロニーの一つであるローマプラタの街並み、そしてそこに住まう人々のたたずまいは、他のパラグアイの、いや日本のどことも違った様相を見せていた。

まず、街並みが美しい。街の中心街だけでなく、周囲の個人の住宅も含めて、整理が行きとどいており、少し大袈裟に言えば、ちり一つ落ちていない感じである。いつか、それと知らずに他のメノニータの街を訪れたとしたら、そこがメノニータの街だと判断できそうな気がする。

皆がメノニータの経営するスーパーマーケットに買い物に出かけている間に、食堂のイスに座りながら一人で聞いた、前出のメノニータの広報担当者の話は興味深いものだった。コロニーの中で、お金は必要がないと彼は言う。完全な信用経済だから、いわば儲けの指標としてのお金はコロニーのなかではいらないというわけである。計画経済だから、今回の世界的な不況の影響も全く受けなかったとも言った。おいしいアイスクリームを御馳走になりながら彼の話をきいていた間中、二人の少女が窓の掃除をしていたが、そのかいがいしい様は、何かを信じて働いている人の美しさを私に教えてくれた。また、レストランで見たメノニータの家族のことは忘れがたい。祖父母、両親に五人の子どもたちという大家族だったが、子どもたち全員が食事の間中、実に静かなのである。我が家の九人の孫たちのことを思い起こしてみても、こんな風にはいかない。頂いたパンフレットによると、メノニータは子どもの躾を大事にしているということである。

しかし、メノニータにも悩みはあるようだ。長い間のいわば近親者同士の結婚の繰り返しのためか、心の病の比率が高いらしく、最近では、他のメノニータのコロニーの人たちとの結婚を推奨しているようである。

いずれにしても、気温五十度を超す灼熱の大地に雄々しく生きている彼らを垣間見て、信じる人間のすごさを感じさせられた二日間の旅であった。

「共育ちカンガルー日記」
（5）アンパンマンのメッセージ

近藤みちる

娘を産んでからというもの、我が家の至る所にアンパンマン・グッズが増え続けている。きっかけは、何気なく買ったアンパンマンの絵本に娘がいたく興味を示したことだった。初めてテレビでアンパンマンを見せた時は、画面にしがみついて離れないほどの興奮ぶり。その様子を見た祖父母は、何かにつけてアンパンマンの絵本やおもちゃを贈ってくれるようになった。今では子供部屋と言わずリビングや風呂場、トイレに至るまで、どこもかしこもアンパンマンである。

買い物に出ても、コンビニやスーパーには、ちょうど子供の目線の高さにアンパンマンの菓子が陳列している。パンやジュースにもアンパンマン。ただアンパンマンの絵が付いているというだけで、もちろん値段も割高である。それでも子供にせがまれて、ついつい買ってしまう親は私に限らず少なくない。今やアンパンマン商品は六千五百点を数え、年間九百億円を売り上げる巨大ビジネスとなっているのだそうだ。

どういうわけか、子供たちはみんなアンパンマンが大好きだ。「アンパンマン」につられて親の言うことを聞いてくれたり、機嫌を直してくれたりするのだから、親にとってもありがたい存在だ。娘はアンパンマンのふりかけをかけると、苦手な白いご飯を喜んで食べてくれる。卒乳のときにはおっぱいにアンパンマンの絵を描いて「おっぱいはアンパンマンになったからバイバイね」と言って納得させた。トイレにもアンパンマンのポスターを貼り、日下トイレット・トレーニング中。まさにアンパンマン様々なのである。

かく言う私も、実は娘に負けず劣らずのアンパンマン・フリークである。毎週テレビで放送されるアンパンマンを娘の隣で見ているうちに、アンパンマンとその仲間たちが繰り広げる心温まるエピソードに心癒され、素朴で懐かしさすら覚えるこのアンパンマン・ワールドに、すっかり魅せられてしまった。

正義のヒーローと言ってもアンパンマンは、地球と人類の平和を守るため命を賭けて悪に立ち向かうウルトラマンとはちょっと違う。もちろん宿敵であるバイキンマンとの戦闘シーンは、毎週一番の山場だ。しかし、決め技「アンパンチ」でバイキンマンを追い払うだけで、決して致命傷は与えない。アンパンマンの使命は、バイキンマンを倒すことではなく、困っている人を助けることなのだ。そのため日夜パトロールを怠らず、野を超え山を越え、お腹を空かせた人にはアンパンでできた自分の顔をちぎって与え、旅人の荷を共に背負い、悲しみに泣き暮れている人の傍らに座り、優しく励まし力づけるのである。

作者のやなせたかし氏は「詩とメルヘン」の誌上で、アンパンマンに託した思いをこう語っている。「我々が本当にスーパーマンに助けてもらいたいのは、たとえば、失恋して死にそうな時、おなかがすいてたおれそうな時、あるいは旅先でお金がなくなった時（中略）本当のスーパーマンは、ほんのささやかな親切を惜しまない人だ」と。この作者の思いこそがアンパンマンのテーマであり、アンパンマンはこの大切なメッセージを子供たちに伝え続けてくれているのである。

今では作者の思いとはかけ離れたところで、アンパンマン・ビジネスは肥大し独り歩きしているようにも思える。しかし、企業の思惑に踊らされて散財するだけではなく、アンパンマンに託されたこの大切なメッセージを、しっかりと受け取る使命が親にはあるのではないか。そして日々の暮らしの中で自らがそれを実行し、身をもって子供たちへ示していく、そんな親でありたいと私は願う。

まだ片言しか話せない娘が、毎日口ずさんでいる大好きな歌がある。やなせ氏が自ら作詞したアンパンマンの主題歌だ。その一節、

なんのために生まれて
なにをして生きるのか？
答えられないなんて　そんなのはイヤだ
今を生きることで　熱い心燃える
だから君は行くんだ微笑んで

いつか娘にこの歌詞の意味を聞かれたときに、私は何と答えるのだろうか。アンパンマンの絵本を娘とめくりながら、ふとそんなことを考えてみるこの頃である。

アンパンマン指で描いて春の土

みちる

エッセイ

記憶

彫刻家　中島　睦雄

一体、人間は自分の記憶というものを、どのくらいまで遡ることができるのだろうか。

何人かの雑談の中で、誰かがそんなことを言い出した。

「小学校へ上る少し前のことだったら記憶にあるわよ。」とA子さんが言った。

「たいがいの人は、せいぜいそのくらい頃までだろうね。」B君は言う。

A子さんの古い記憶は、小学校へ入学する前に、お姉さんの学校の学芸会を見に行ったときのものが、はっきりしているという。

お母さんと二人でお姉さんの学校へ出かけたのだが、休み時間に三人で食べるようにと、コンペイ糖などのお菓子を袋に入れて持って行った。A子さんは、それを早く食べたくて仕方なかった。そこで、お母さんに気付かれないように、その幾つかをそっと食べてしまったのだ。学校へ着いて三人で食べようとした時、A子さんの盗み食いがバレてしまって、お母さんに叱られてしまった。

「これが私の一番古い記憶かなぁ。」とA子さんは言う。

「もっと古い記憶を持っている人もいるよ。」とB君は言う。

〝夕やけこやけの　赤とんぼ
負われてみたのは　いつの日
か〟

「これなんかは、ずい分小さい頃の記憶だよね。十五歳くらいのねえやの背中におんぶされているんだから、まあ幼な子だよね。その子が赤とんぼの飛んでいるのを見た記憶を持っているんだから、ずい分古い記憶だと思うよ。」B君の言はもっともである。言われてみればその通りであろう。

「ところでね。」と私は話を脱線させてしまった。「ところでね、オレはね、〝負われてみたのはいつの日か〟というのをね、〝追われてみたのはいつの日か〟って思っていたんだ。」と言った。つまり、幼な子がねえやの背中で赤とんぼを見ていたのではなくて、子供が赤とんぼを追いかけていると。しかも、とんぼの方ではゆとりを持っていて〝ほらほら、追っかけてごらん、こっちだよ、あっちだよ〟と、子供をからかいながら、子供に追われてみたのだと、長い間思っていたものである。

さて、私の古い記憶はどうなんだろう。やはり小学校へ上る前のことである。

当時、私たちの村では、田植の盛んな時に田植休みというのがあって、小学校は一斉に休みになった。子供たちはそれぞれの家で田植の手伝いをするのである。高学年の子供は、実際に親たちと一緒に田植をするし、低学年の子供は苗を運んだりした。

学校へ上る前の子供は足手まといになるので、学校で急ごしらえの託児所を開設した。そこへ私も入れられて、初めての集団生活をした訳である。

私は、急にはみんなと遊ぶことができず、壁にへばりついて、みんなの動きを見ているという子供だった。

先生方が何人かで、すべり台で遊ばせたり、蓄音機で音楽を流して簡単な遊戯を教えたりし、いろいろと面倒をみてくれた。それでも私は壁の花ならぬ壁の汚れみたいにしていたものだ。

その時流れていた音楽だけは、不完全ながら覚えている。題名はわからない。歌詞も前半はわからない。しかしメロディは頭から尻尾まで、そして歌詞は後半だけ覚えている。時々思い出してハーモニカで吹いてみるが、一応音楽になっているようである。そこで、童謡の本などを調べてみることもあるが、まるでわからない。その後半では、

・・・お馬のおどりはパッパッ
パッパッパッパ
シャンリンシャンリンゝゝ
パッパッパッパッパ

こんな歌詞で終わっている。

いずれにしても、これが私の小学校へ上る前の記憶、私にとって最も古い記憶の一つに違いない。

こんなことを友だちに話してみた。それにつけ加えて「ところで、若しオレが天才であったら、母親から生まれた時、オギャーと泣いたことを覚えていたのだろうが、残念ながらそんな記憶が全くないんだよ。」と言ってみた。

みんな「ゲーッ」と、呆れ顔をしたのは言うまでもない。

プ・リ・ズ・ム

子どもたちの季節　仙道家

雪がちらつくほど寒い日々が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、毎年恒例の鬼の来訪がありました。今年は仙道家の新しい仲間、三才の智司の反応にみんなの注目が集まりました。一方、五才の彬には注目が集まらず。当の本人は「鬼が来たら、おまめ投げるの」「オレは強いから！」と強がる一方、「鬼来たら、貴子さん守って」と怖がっていました。

それは突然の出来事でした。食事が始まってすぐ鬼が来たのです。職員でさえびっくりしたのですが、智司は泣くどころか、豆を平然と投げ続けていました。一方彬はといえば・・・居ないのです。「彬～」と鬼がうごめいている中、呼び続けると・・・ひょっこりテーブルの下から顔を出しました。私が引っぱり出した後は大混乱です。「彬悪い事してない！いい子だよ！」と悲痛な面持ちで鬼に訴え、抱っこをして、豆を持たせても「嫌だー!!」と結局一粒も投げられませんでした。見かねた指導員がもう一度鬼を呼び寄せてくれ、やっとの思いで退治したのが今年の彬の豆まきでした。（ちなみに智司はこの時大泣き）

怖がってテーブルの下に潜っていたことより、たった二、三粒で鬼を退治したことが、とても自信になったようで、その後しばらく「彬、鬼やっつけた～」と放心状態で話していました。

田口　貴子

光のなかで　佐藤家

二月になり、暦の上では春が到来していますが、春とは名ばかりでまだ朝晩の厳しい冷え込みが続いています。そんな中でも子どもたちは寒さに負けず、元気に登校して元気に外で遊んでいます。

先日、農業高校に通う浩伸がニワトリを飼いたいと嘆願してきました。浩伸は動物が大好きで、どうしても飼いたいと強く願いましたが、色々と検討した結果やはりここでは飼育できないという結論になりました。それでも浩伸は諦め切れない様子だったので、光の子どもの家からほど近い私の実家で、ニワトリを飼育することにして、浩伸が時間をみつけてニワトリの世話の手伝いをすることになりました。

浩伸は色々な事に興味を持ち、色々な夢を持っています。それは素晴らしいことであり、話をしていてとても楽しいです。しかし浩伸は今のところ、自分の足元を見ずに上ばかり見ている様に感じます。そんな浩伸の事がとても心配ですが、これから更に成長していくにつれて、少しずつ自分の足元も見えてくると思うので、焦らずに彼の成長を待ちたいと思います。

高野　真夕子

原田家日記

今年度も終わりに近づき、それぞれが来年度へ向けての準備をする期間になりました。受験を間近に控えているにも関わらず、緊張感のない日々を過ごしている大仏のような一。来年度から短大への進学を決め、母宅からの通学を目指しつつ現実感のない生活を送っている育実。中学入学を控え、相変わらずよく食べよく寝る綾。行動に無駄が多く、歯磨き粉をつけてから磨き始めるまでに時間がかかり、いつの間にか歯磨き粉がどこかに飛んでいってしまうような毎日を送っている小学校入学予定の北斗。節分で鬼が来たときにパニック状態になりしばらく小鳥のように震えが止まらなかったピー助は幼稚園へ。

それぞれが新しい環境や生活を前にして周りの大人は焦りや物足りなさを感じ、つい小言が多くなってしまいますが、子どもたちはそれほど深く考えていないのでしょう。『案ずるより産むが易し』と言いますが、子どもの順応性の良さは大人とは比べものになりません。好奇心旺盛な子どもたちにとって新しい生活がプラスの刺激になるように、ゆったりと見守っていきたいです。

小西　剛史

季節のおとずれ　竹花家

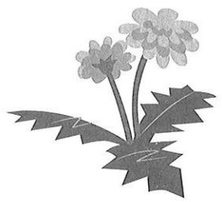
長いようで短い年度が過ぎていき、進級進学の春を控えた子どもたちが、それぞれの学校や幼稚園、学年に期待を大きく膨らませております。しかし、この時期（現在二月初旬）になると期待とだけは言っていられないのが受験生。

おかげさまでこの春卒園する三名はそれぞれ志望した大学・短大に合格し、大きな喜びを胸に新たな春に向けて準備を進めております。残るは高校受験を控えた中学三年生の二人。我が家の受験生、清貴は依然として受験を間近に控えた焦燥感など微塵も感じさせない、悟りの境地であります。私が中学三年生の時、黒板には「正念場」と太い大文字で書かれた紙が貼り付けてあって、公立中学でしたので初めての受験を迎える私たちは、受験という初めて登る高い山への頂上アタックと言わんばかりに緊張し、必死になった事を今でも覚えています。そんな気持ちで臨んだ受験を、確かにこの清貴も目の前にしているはずなのに・・・。

しかし立ち止まって考えてみると、あの頃の私と今の清貴の状況は同じ受験生で一緒ですが、私が持っていた受験に対する思いと清貴が持っている思いは違って当たり前です。だから姿勢ややる気は違って当然で、私の持つ受験生のイメージというものすごく狭い枠に清貴を無理矢理押し込めるような事は一切必要ないのです。むしろ「私はこうだった、だからお前もこうしろ」なんて言ってはいけないのです、多分。

そんなふうに私も悟りの境地に片方の足を踏み入れつつ、やはり今日も「清貴、勉強しろ！」と檄を飛ばしております。この光の子が皆様のお手元に届く頃には、清貴の晴々とした笑顔が見られるように日夜祈りながら。

鈴木　洋一



河のほとりで　倉澤家

小三の成黎は担当者のことを外では「ママ」、家では「倉ちゃん」と呼んでいましたが、この一年はどこでも「ママ」と呼んでいました。担当者のことを母親のように思ってくれるのは嬉しいのですが、最近「ママ」と呼ばれることに違和感を覚えるようになっていました。

「成黎、もうすぐ四年生だし、男の子だから『ママ』はやめて、『かあさん』にしない？」

「エー、『ママ』じゃだめなの？僕『ママ』がいい。」

「なんか男の子から『ママ』って呼ばれるの、あんまり好きじゃないんだよね。『かあさん』の方が男らしくていいじゃない。」

「『かあさん』か・・・。」

「ちょっと一回呼んでみてよ。」

「かあさん！」

「オー、いいねいいね、すっごくいい！」

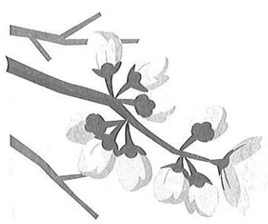
「かあさん、行ってきます。――これはどう？」

「いい！いい！最高!!」

と言うことで、これからは「かあさん」と呼んでもらうことになりました。「ママ」も「かあさん」も意味は同じなのですが、「かあさん」ということばの響きが、何とも言えず好きなのです。

「かあさん」のことばの重みに負けないような、成黎の母親になれる日が来るように、豊かな生活を送りたいと願っています。

倉澤　智子



養護メモ 132

政権交代は・・・

菅原 哲男

昨年後半に政権が交代した。ある意味画期的な変化を多くの人々が期待したのは事実だろう。

この国のもっとも貧しく弱い一群に子どもたちがいる。

児童養護施設を利用しなければならない子どもたちは子ども全体の〇・一五％弱であり、九九・八％強の子どもたちは児童養護施設を利用しないのである。だから利用する子どもたちは全体の中で見過ごされることが常なのだ。それがこれまでの児童養護施設の歴史でもあった。

政権交代が実現したら、国民の目線で政策が展開されるだろうと期待した。国民の目線に児童養護施設の子どもたちはなかったことを思い知らされるようなことが、ここ光の子どもの家にもあったからである。

約十年ほど前に、高校を卒業して、中学時代から目標にしていた染色職人になりたいという子どもがいて、その専門学校を受験し合格した。彼女は中学時代から少ないお小遣いを貯め、高校時代の長期休みはほとんどアルバイトに費やして専門学校入学時の入学金に充当する費用を調達したのである。

ところで、一九九七年改正児童福祉法によれば、措置延長制度が整備され、二年ないし四年までの措置延長が可能になった。希望すればその期間ここで暮らすことが出来ることになるのである。そのことは、児童養護施設から高校に通い、卒業してさらに大学や専門学校に進学する者や、社会に出て行くための準備にしばらく時間を必要とする者たちにとって福音になるはずのものだった。何しろ措置延長を利用するための制限など何もない法律なのだから。

その女子のためにも措置延長を児童相談所に願い出たが、相当なやりとりの末、措置解除通知が三月末に来た。措置を解除されるとその時点から生活全般の責任が一八歳の子どもにかかることとなる。だから措置延長制度を利用できなかったその女子の生活費や学費などは、光の子どもの家の職員たちのカンパや本人のアルバイトでカバーし、三年間の専門学校を卒業した。

卒業以来今も働いて高卒者よりは高い所得税などを納めている。子どもや職員たちに相当な負担を強いながら、国は所得税などを取り立てているのだ。お上のやらずぶったくりの構図ではある。

一般に、大学進学をする子どもは家族に住むことと食べること程度の面倒をみてもらえるだろう。そうでないと大学生活は不可能である。本人のアルバイトで確保できるのは次年度の学費とお小遣いぐらいが限度だ。

今年度も高卒後三名が大学進学を希望して、すべて希望の大学に合格した。そのうちの一人は、入所当初から家族関係に関わり調整に力を注いできたが、その家族や縁者から全くサポートを受けられない子どもである。そして、かなり努力を重ねて目標にしてきた大学入試を乗り越えたのである。その子のために児童相談所と何回か措置延長について協議した。

今回は、前回とは違って児童相談所は担当者を中心に措置延長を認めるために努力してくれた。児童相談所では措置延長相当と判断したようで、県の担当課にも掛け合ったようだ。県でも何とかならないかと案じてくれて厚労省の担当課に問い合わせたそうである。

後日、児童相談所の担当ワーカーから、「申し訳ない、厚労省は、大学に行くことが出来るほどの力があるのだから、自分で何とか出来るだろう、ということでだめでした。」と、報告があった。

奨学金も家族の支援がない者には厳しい条件があり手続きの段階で排除される。

結局、児童養護施設にある篤志団体・個人の奨学金や補助などをかき集めても、その大学の近くに部屋を確保することから生活に関わる諸経費を最低限度に見積もって、一ヶ月約十万円ほどが足りないのである。

またも、その子の不足な経済生活面は、厳しいはたらきを担い続けている職員や応援してくださる方々に求めていかなければならないこととなっている。

政権交代にかすかに期待したのは、最も困難を託つ者に、救いの手をさしのべてくれるだろうということであった。

この度の政権交代でも、高級官僚でも建設業者でもない、貧しくて票などを持たない子どもは、法があっても具体的な政策には期待出来ないという現実を再確認させられたのである。

何ともやり場のない虚しさだけが残った。

現場から

続・光の子らしく ㊶

岩崎 まり子

今年に入り、雪の日が随分あります。子どもたちと大人の一部は大喜びですが、皆様、いかがお過ごしですか。

先日、家の事情で急なお休みを頂く都合が出来ました。その日は休日だったこともあり、子どもたちそれぞれと買い物やお菓子作り、散髪の約束をしていましたので、それぞれに謝罪してまわりました。

「何でよォ」

と怒る理奈に、

「お父さんが入院しちゃったんだよ」

と、説明しながら不覚にも涙がこぼれてしまいました。一度こぼれてしまうと押さえがきかず、理奈に抱っこされるままにおいおい泣いてしまいました。

「ママ、行っていいよ。泣かないで」

なだめる理奈も泣いてしまい、二人してちょっと笑ってしまいました。

父も何とか大丈夫ということで戻ってくると、子どもたちが口々に、

「お父さん、大丈夫？」

と気遣ってくれ、とてもありがたい気持ちで一杯になりました。

けれど、鋭いところのある丘実は、

「ママ、悲しい？ママ、辞めないで」

と言ってきました。

どこをどうやって推理したのかわかりません。私が、そういう気配を漂わせていただけなのかもわかりませんが、ドキッとしました。

帰ってきた日の夜、理奈と丘実といつもより体を寄せ合って本の読み聞かせをしながら、自分の親や将来に対する不安や心配と、彼女たちのそれとの質量のあまりの違いに涙が出そうになりました。

理奈や丘実は、物心つく以前に親御さんを亡くしています。存命の親御さんとの関係も平穏とはとても言えない、そして、そばに居て当たり前という存在ではないのです。

居て当たり前の存在感。そんな関係や存在がこの世界にあるということすら実感として持っていない彼女たちの底知れぬ不安が、ふいに現実味を帯びたように思いました。

だからこそ“居続ける”ことを選択したはずなのに・・・。自分の一時のしんどさに安易に取捨選択しようとした自分をとても恥ずかしく思いました。

「悲しい？」

と尋ねてくれた丘実と同じように悲しみを共有でき、

「泣かないで」

と言ってくれた理奈と同じように泣いてしまうような思いを共有でき、

「辞めないで」

と言ってくれた丘実の不安を共有できるようになるのに何年かかるでしょう。改めて、こんな私でも良いのだろうかと思ってしまいますが、この子たちが居るところこそ自分が帰る場所だという思いを新たに新年度に臨みたいと思います。

今年も6月に基準外職員確保のための「小さくても大バザー」を行います。
バザー物品のご協力をよろしくお願い申し上げます。

光の子どもの家 バザー実行委員会

日誌抄 ＝子どもと創る暮らしの風景＝ 2009年12月1日▶2010年1月末日

２００９年１２月現在
幼児６名　小学生１５名　中学生８名　高校生７名　措置外５名　計４１名

６日　第二アドベントのお祝い会

１３日　第三アドベントのお祝い会　感謝の集いで素晴らしい演奏をして下さった“ドルチェ・ヴィータ”の篠塚裕美子様と浅子勝也様がピアノとマリンバでクリスマスソングを演奏して下さる　豊かなひとときを感謝

１４日　小学校との連絡会　日頃から子どもたちに寄り添って応援してくださっている先生方との情報交換　貴重なお時間を割いて頂き感謝

１５日　鉄道弘済会の方々が８名来訪　札幌南藻園の建て替えに際しての見学

２０日　第四アドベントのお祝い会

２１日　小学校との連絡会　細やかな情報交換をしながら２学期を振り返り３学期を迎える準備ができた　感謝

２２日　生け花教室の先生方が来訪し生け花を教えて下さる　生活の中に彩りを添えることの大切さを学ぶ　感謝

２５日　クリスマスページェント中止　新型インフルエンザにより創立以来25回の中で初の中止となった　残念

２８日　餅つき　斉藤米屋様より90kgもの餅米を頂き朝から夕方までワイワイガヤガヤ賑やかに餅つき　また島崎渚様が来訪し素敵な生け花を飾ってくださる　毎年のお心遣いに心より感謝

２０１０年１月

１日　元旦礼拝　新年の挨拶に併せて年初めに全員で今年の抱負を語り合う食事会　2010年がそれぞれに豊かな年となるように祈る

７日　卒園生佐藤摂の母の葬儀に全員で参列　東大宮教会にてご親族と共に故人と遺族の平安を願い祈りを捧げる　摂のこれからの生活を今際の時まで心配していた母の思いを胸に刻みながら光の子どもの家と摂の関係は続く

１０日　小山市立文化センター様からのご招待で劇団四季のミュージカル「嵐の中の子どもたち」を観劇　感謝

１４日　中学校との連絡会　中学校での子どもたちの様子を先生方からお聞きし日々の生活を振り返る　感謝

１８日　年末から光の子どもの家に来訪していた６年前の米国からのインターンシップ生トニーレオンさんが帰国　毎年のように来て下さるトニーさんとのかけがえのない関係が築かれていく　光の子どもの家に豊かな人間関係が与えられている事を心より感謝

《１２月・１月の物品ご寄贈者》
保村幸子　宮澤嘉枝子　太田澄子　松本明子　東洋英和女学院中学部　ハムコ会品川ファミリー支部　千代田教会　真中歯科医院　日本児童図書出版協会　狭山シャローム教会　埼玉書店商業組合　落合美佐子　株式会社プレナス　高橋和男　ネッツトヨタ東埼玉　財団法人日本出版クラブ　福楽　大塚智寿子　大利根町郵便局組合　ステラ　大利根藤学園　小野田博哲　大橋清栄　黛執　朝倉桂子　白井のり子　東洋英和女学院小学部　池川君子　冨田農園　チュチュアンナ　米盛あゆみ　こやなぎスポーツ　真田明恵　宮原康子　後藤利子　杉山勝則　中村久美子　大竹正寛　加須婦人会　他多数の後各位様
☆年末年始にかけても書ききれないほど多数の方々からのお支えに心より感謝申し上げます（洋）

反射光

☆光の子どもの家の中央にそびえ立つ大ケヤキの堅かった新芽が徐々に柔らかさを感じさせて参りました☆この春出発の時を迎える三名の高校三年生はおかげさまで全員が志望校合格☆光の子どもの家での生活をそれぞれが振り返りながら来年度の新しい生活へと向かっております☆大学等への進学にあたり経済的な援助を得られない子どもたちのために「光の子どもの家自立進学基金」を多数の方々が発起人となって設立して下さいました☆多数の方々が心を寄せて下さり卒園していく子どもたちの高卒後の進路選択の幅を何とか確保することができております☆私どもの足りない所を子どもたちのためにいつもお支え下さる支援者の方々に心より感謝申し上げます☆新年を迎えて早二ヶ月が過ぎ子どもたち一人ひとりの今年度を振り返り来年度の自立支援計画を作成しております☆子どもたちが持つ成長しようとする力を信じて寄り添う私たちはどんな生活を創っていくべきか☆子どもたちそれぞれに与えられた賜物を思い切り伸ばして心を広く大きく育てたい☆子どもたちの成長を願う思いは皆同じです☆多くの方々に支えられながらの歩みが今後も続けられますようにと感謝を込めて祈ります☆これからもよろしくお願いいたします☆（洋）